

研究課題名	冠動脈バイパス術における右胃大網動脈のCTによる術前評価法の精度と有用性の検討
研究機関名	武蔵野赤十字病院心臓血管外科
研究責任者	所属 心臓血管外科 氏名 横山賢司
研究期間	(西暦) 2021年 8月 ~ (西暦) 2021年 10月
研究の意義・目的	冠動脈バイパス術における右胃大網動脈グラフトによる右冠動脈の血行再建は大伏在静脈グラフトの使用に比較して長期生存率や心血管関連死亡回避率を向上させると報告されている。一方で、動脈グラフトの特徴である易攣縮性からグラフト閉塞の強い危険因子である血流競合を来し易い。血流競合、閉塞の危険性を予測し右胃大網動脈を採取・吻合する適切な症例を選択することを目的とした術前評価法を検討することを目的とした。
研究の方法 (対象期間含む)	2010年4月から2020年3月の間に当院で施行した単独冠動脈バイパス術症例のうち、有茎右胃大網動脈グラフトを右冠動脈領域に吻合した症例を対象とした。除外基準は術前CTを施行していない症例、術後早期及び1年後グラフト評価(冠動脈造影または冠動脈造影CT)未施行の症例、右胃大網動脈を右冠動脈領域以外の領域にも連続で吻合した症例、術後評価でグラフト損傷を来した症例とした。単純CTでも測定可能な右胃大網動脈の胃十二指腸動脈からの起始部の外径を測定し、グラフトの中期成績と比較しその検査法の有用性を検討した。
①試料・情報の利用 目的及び利用方法 (匿名加工する場合や 他機関へ提供される場 合はその方法含む) ②利用し、又は提供す る試料・情報の項目 ③利用する者の範囲 ④試料・情報の管理 について責任を有す る者の氏名又は名称	①上記の意義・目的で上記の研究方法に従って電子カルテから得られた情報のみを結果結果として使用した。 ②診療記録や検査レポート、画像情報等の電子カルテで閲覧可能な以下の情報を利用した。 1) 患者基本情報：年齢、性別、Body Mass Index(BMI)、肥満(BMI>26)、喫煙歴、既往疾患(高血圧、脂質異常症、糖尿病、血液透析) 2) 血液検査：eGFR 3) 画像検査：右冠動脈最狭窄部径、右冠動脈狭窄率、右胃大網動脈起始部径・最大部径・最小部径、術後冠動脈造影、術後冠動脈造影CT 4) 手術情報：手術時間、手術法、両側内胸動脈使用、完全動脈グラフト血行再建、全吻合枝数、右冠動脈領域吻合枝数、平均血流量、拡張期フィリング指数、拍動指数 5) 術後情報：死亡、グラフト機能性、内服(アスピリン、ワーファリン、ジルチアゼム、その他Ca拮抗剤、スタチン) ③武蔵野赤十字病院心臓血管外科 一同 ④武蔵野赤十字病院心臓血管外科 横山賢司
問合せ先	当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ  〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 心臓血管外科 氏名 横山賢司  TEL：0422-32-3111 (代表) 6812 (事務局内線) FAX：0422-32-3525